

石 山

発行所 札幌市立石山中学校
発行者 網島 七恵
住所 南区石山2条8丁目7-1
電話 011-591-8853

「令和6年度 3学期始業式の言葉」

校長 網島 七恵

皆さん、おはようございます。

令和7年、新しい年の始業式を迎えることができたことを心から嬉しく思います。今年もよろしくお祈りします。今年の干支は巳。巳年は、これまで努力してきたことが実を結びはじめる年だといわれています。また、蛇は脱皮をすることから、新たな挑戦や変化に前向きになるといわれています。代表の片山さんが立派に3学期を迎えるスピーチをしてくれました。是非、皆さんにとっても前向きな1年になることを願っています。

私は、お正月に行われる大学生の「箱根駅伝」を毎年、楽しみに見えています。結果は青山学院大学が2年連続8回目の総合優勝を果たしました。今シーズン優勝候補であった国学院大学が出雲全日本大学選抜駅伝と全日本大学駅伝の2冠を制していたにも関わらず、最後のレースで破り、しかも、大会新記録を塗り替える快挙はつくづく勝負は最後まで分からないものだと感じました。少し強い相手との勝負であったり、少し困難な目標であったりしても、最後まであきらめない心で向かっていく勇気をもらったような気がします。

駅伝の第一の目標は、想いを込めた母校のタスキを、何とかして次の走者へ渡すことです。規定時間が来ると走者を待たず繰り上げスタートとなり、母校のタスキではないものを着けて走るようになります。仲間にタスキを渡そうと必死に走ってきても中継地点には仲間がいない、悔し涙を流す選手を見ていると、胸が苦しくなる時があります。「この悔しさを乗り越え、また頑張れ!」とTVに向かって心の中で叫んでいます。

私も勝負の世界に携わってきて、勝つことよりも、負けたことから学ぶことが多かったような気がしています。負けることは、決して恥じることはありません。しかし、負けてそこから立ち上がろうとしないことは恥じることだと思っています。

今日から始まる3学期は、期間は短いけれど、皆さんにとってまとめの学期であるだけでなく、タスキをつなげる学期でもあります。これまでの走者から待っている仲間に「頼んだぞ」という思いでタスキを渡し、そして、次の走者は、そんな気持ちを真正面から受け止め、「任せておけ」といわんばかりに力強く走り出すときなのです。

最後に、3年生に向けて一言。

冬休みにしっかりと取り組み、自信をもたてましょうか。逆に、目の前に受験が迫ってきて不安やプレッシャーに押しつぶされそうだったり、やらなきゃと思いながら十分にできず焦ったりしている人もいます。でも、そう思っている人はあなただけではありません。全国の中学3年生の多くが同じような思いをしています。

ですから、ひとりで抱えるのではなく、「不安だよな」「どうしよう」と仲間と語り合えばいいのです。語り合ったからといって、不安がなくなるわけではありませんが、「自分だけではない」ということを実感できるだけでも、前へ進むエネルギーをもらえるでしょう。そして、お互いに励まし合えば、より頑張るエネルギーになることでしょう。

終業式でお話した「心を形にする」とちょっと気持ちが楽になるものです。

先に述べたように已年にあやかって、これまでの「努力」「新たな挑戦」が4月以降の生活につながるタスキとなります。あと一歩、もう一歩と自分から前向きにやってみる3学期にしていきたいと思います。

これで3学期始業式のお話を終わります。

(三学期始業式 校長講話より)

「冬休みを通して3学期頑張りたいこと」

1年3組 片山 彩夏

私は冬休みを通じて3学期頑張りたいことがあります。私は、冬休み前に書いた計画にそって冬休みに毎日の勉強を実行することを心がけていました。その結果、一日も勉強をしていない日はなく、勉強と部活を両立することが出来ました。この課題を達成したことで「継続する力」を身につけることに繋がりました。この力を3学期はより高めていきたいです。

ところで、私には冬休みに得たことを活かし、3学期に頑張りたいことがあります。それは「自分から進んで行動すること」です。どんなに苦手でも、やりたくなくても、真正面から真剣に考えて、自ら行動していきたいです。

3学期は、2年生になる前の準備期間でもあるので、1年生の終わりと考えてのではなく、2年生のはじめと考えて「自ら行動する事」を意識して、学校生活を送りたいです。個人としてだけでなく、学年全体で「自ら行動すること」を目標とし、普段からお互いに思いやりをもって、基本的な部分から、もう一度見直して生活することでより一層成長することが出来ると思います。そのために、学級、学年の代表の一人として手本となる行動を努めていきます。

あなたの相談先は？

家族や友人、先輩、先生、スクールカウンセラーのほか、下記の相談窓口も、あなたをサポートしてくれます。

【電話での相談窓口 ※通話料無料】

○いじめ電話相談（少年相談室）

TEL0120-127-830

○24時間子供SOSダイヤル

TEL0120-0-78310

○子どもアシストセンター

TEL0120-66-3783

【メール、LINEでの相談窓口】

○子どもアシストセンター

メール: assist@city.sapporo.jp

LINE:



【虐待に関する相談※通話料無料】

○虐待対応ダイヤル

TEL 局番なし 189（いちはやく）

子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

いじめや不登校、体罰などの学校教育に関する悩み、子育て・しつけなど家庭教育に関する悩みなど相談してください。

●電話相談

☎ 0120-3882-56

（無料、毎日24時間対応）

●メール相談

doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp

※急ぎの場合は電話相談を利用してください

●来所相談

（10～16時、土日・祝日、年末年始はお休みです。）

子ども相談支援センター

札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階

※上記の電話相談で予約してください。

センターWebページ



※ センターのWebページに、「子ども相談支援センターへの相談事例」を掲載しています。次のURLからご覧ください。

URL : <http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/soudanjirei.pdf>